

# 令和3年度 事業計画書

公益財団法人北海道文化財団

## I 基本方針

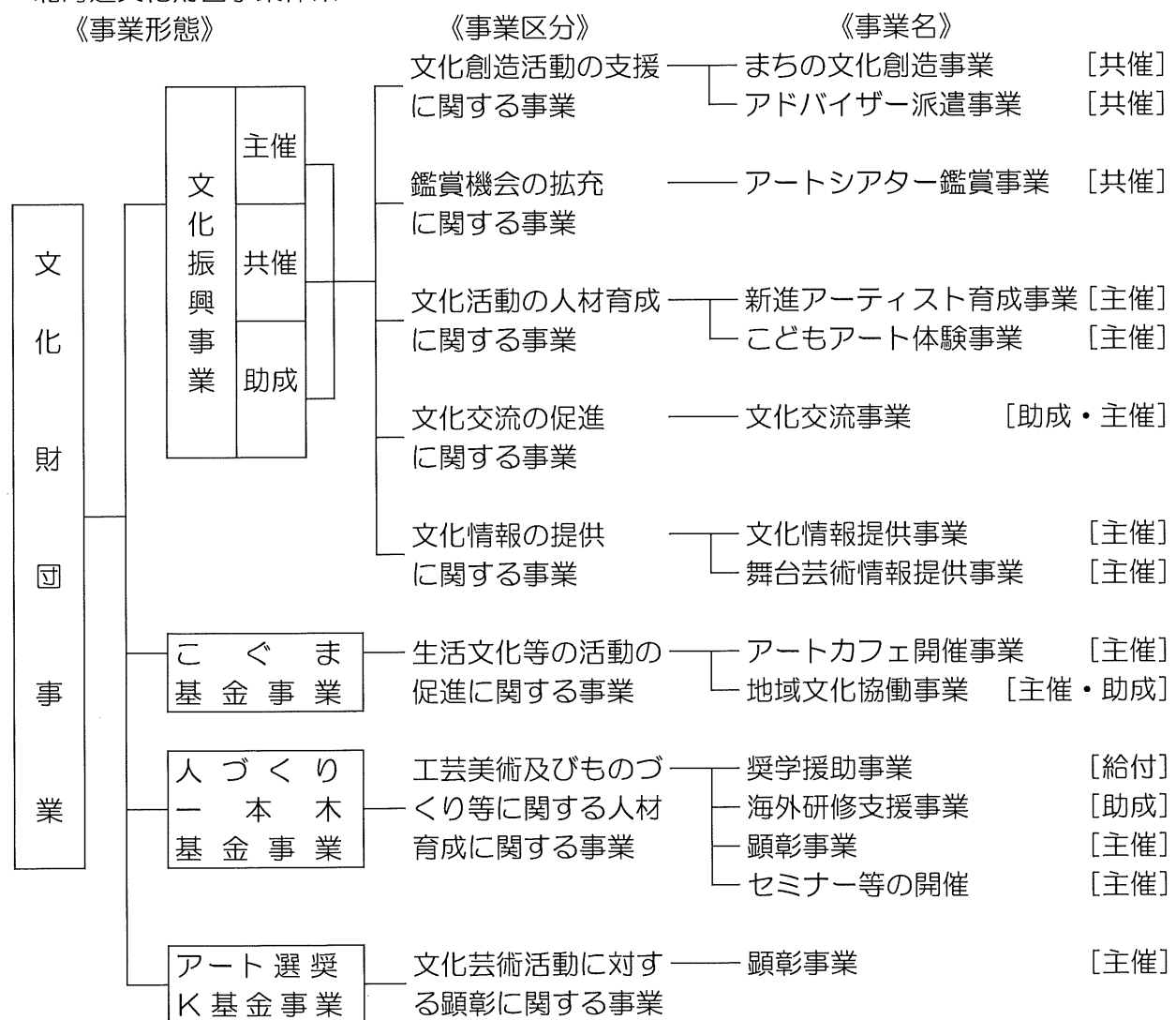
北海道文化財団は、平成6年11月に設立以降、これまで、道民の自主的な文化活動の支援、文化鑑賞機会の拡充、さらには人材の育成等幅広い文化の振興に関する事業をおこなうことで、多様な地域文化を創造するとともに、すべての道民が文化恵沢を享受することができる地域社会の実現をめざしてきた。

このような中、令和2年は誰もが予想だにしなかった新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、道内各地の大半の市町村や文化団体等が文化芸術活動やイベントの中止に追い込まれたほか、発表の場を失ったアーティストや関係者が自粛を余儀なくされた。

このため、財団では、深刻な影響を受けた団体や個人に対して、国の交付金や道の補助金などの柔軟な活用により支援を行ってきたところである。

今後も、直ちには収束が見込めないコロナ禍の状況下において、令和3年度でも各種事業をこれまで通り実施することはもとより、国や道の補助金などを活用した柔軟な支援方策の検討や、実施内容の工夫により効果的な事業展開を進めていく。

## II 北海道文化財団事業体系



Ⅲ 文化財団事業

1 文化振興事業

(1) 文化創造活動の支援に関する事業

ア まちの文化創造事業

【24,664 千円（24,648 千円）】

地域住民による、自主的で創造的な、公演や展示等の発表に対し、経費の負担や助言等を行い、自主的な文化活動を促進するとともに、文化活動による地域づくりの機運の醸成を図る。

- 12事業（10市町）

イ アドバイザー派遣事業

【3,565 千円（3,696 千円）】

地域の文化団体等からの要請に基づき、文化活動に関する専門的な知識や経験を有するアドバイザーやプロのアーティストを派遣し、事業企画や舞台技術に関する指導・助言、舞台表現に関するワークショップ等を行い、課題を解決するなど、地域における文化創造活動を支援する。

- 舞台技術アドバイザー 1件（1町）
- 舞台表現アドバイザー 12件（7市町）

(2) 鑑賞機会の拡充に関する事業

アートシアター鑑賞事業

【24,016 千円（24,004 千円）】

当財団が選定した公演や、各市町村や地域の文化団体等が連携して企画する公演に対し、経費の負担や助言等を行い、優れた芸術鑑賞の機会を提供することにより、文化の裾野の拡充を図る。

- 道内アーティストプログラム 4公演（4市町）
- 道外アーティストプログラム 16公演（16市町）
- HAFセレクトプログラム 8公演（8市町）

(3) 文化活動の人材育成に関する事業

ア 新進アーティスト育成事業

【13,036 千円（13,035 千円）】

道内でさまざまな文化芸術活動に関わっている団体と協働し、実践的な講座やワークショップ等の人材育成事業を行うとともに、北海道戯曲賞等により若手のアーティストや劇作家、制作スタッフ等の幅広い質的向上を図る。

さらに、道内において活動している実演団体を「音楽の宅配便」として各地域でコンサート等を行うことでアーティストとしてのスキルの向上を図り、加えて地域文化団体と連携した取り組み等によって人材育成を図る。

- 協働事業及び北海道戯曲賞等 5事業程度
- 音楽の宅配便 5公演（5市町村）

イ こどもアート体験事業

【4,624 千円（2,910 千円）】

国内外で活躍するアーティスト、実演家を道内の地域に複数回派遣し、子どもたち（児童・生徒）を対象とした体験型ワークショップや、共同制作、発表を行うことで、豊かな創造力、表現力の育成を図る。

- 4件程度

#### (4) 文化交流の促進に関する事業

##### 文化交流事業

【8,181 千円 (8,162 千円)】

道内において、音楽、演劇、舞踊、美術等の芸術分野で活動している地域の文化団体等が、道外や海外で行う公演等や、道外や海外において、音楽、演劇、舞踊、美術等の芸術分野で活動している文化団体を招へいして、道内の文化団体等と交流を行う事業に経費の助成を行い、道内の文化活動の活性化を図るとともに、道外及び海外とのネットワークづくりを図る。

また、提携交流では、積極的な発信活動を行ってきている実演家団体等を道外に派遣、または招へいし、さまざまな領域で相互の理解と交流が深まる地域間交流を促進する。

- 発信交流事業 6件 (2市)
- 招へい交流事業 4件 (3市町)
- 文化提携交流事業 3件程度 (劇団ハイバイ札幌公演 他)

#### (5) 文化情報の提供に関する事業

##### ア 文化情報提供事業

【6,116 千円 (6,097 千円)】

当財団が実施する各事業の内容や地域において自主的に企画する文化活動の参考となる情報を、情報誌「北のとびら」やホームページを通して提供するほか、財団の事務所に「文化情報ライブラリー」や、美術作品等を紹介する「アートスペース」を設け、運営する。

また、インターネットの機能を活用し、財団ホームページの展開強化を図る。

##### イ 舞台芸術情報提供事業

【781 千円 (728 千円)】

道内で実施可能な音楽、演劇、舞踊等の公演の最新情報を提供する「北海道舞台芸術情報フェア」や、鑑賞事業の共同開催に向けて、市町村や地域の文化団体等と公演企画団体が情報を交換する「舞台芸術ネットワーク会議」を開催する。

- 北海道舞台芸術情報フェア (Web 展開)
- 舞台芸術ネットワーク会議 (地域創造セミナーの組み入れ)

## 2 こぐま基金事業

### (1) アートカフェ開催事業

【500 千円 (500 千円)】

暮らしの中にアートを身近なものに感じてもらうこと、アートを通して人と人とが出会い、豊かな時間を持つことを目的に、道内外で活躍するアーティスト等をゲストに迎え、参加者とアーティストが身近な距離で交流するトークイベントを開催する。

- 1事業

### (2) 地域文化協働事業

【3,840 千円 (2,645 千円)】

生活文化等の分野で活動する団体等と当財団との協働により、各種事業を実施し、地域文化の一層の創造、発展を図る。

また、令和元年度に行った「マームとジプシー」公演の成果を受け、再び藤田貴大の作・演出による「かがみ まど とびら」を、(一財) 地域創造の助成による道内2地域 (士別市、中標津町) 及び道外の巡回公演の一つとして、財団は札幌文化芸術劇場hitaruと共催して札幌公演を行う。

- 4事業程度

3 人づくり一本木基金事業(長原・スチウレ・イング人づくり基金) 【9,847 千円 (9,300 千円)】

長原寛氏並びにスチウレ・イング氏からの指定寄附を基に、工芸美術及びものづくり等の分野において、次代を担う人材を育成し、北海道における創造活動の振興発展に資するため、道内在住又は道内出身者を対象に、奨学の援助、研修の支援、顕彰並びに人材育成に関する事業を実施する。

- 奨学援助事業 13名
- 海外研修支援事業 1名程度
- 顕彰事業「ものづくり一本木選奨」 3件程度
- 人材育成事業 ものづくり交流セミナーの開催 など

4 アート選奨K基金事業 【169 千円 (169 千円)】

磯田憲一氏からの指定寄附を基に、文化芸術活動の一層の振興発展に寄与するため、個人又は団体を顕彰する。

- アート選奨 1件程度

IV 執行体制

